

～重症熱性血小板減少症候群(SFTS)患者の発生について～

令和2年(2020年)12月6日、県内で、今年6例目となる重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome:以下「SFTS」という。)の患者が発生し、12月10日に亡くなられたことを確認しました。

SFTS患者の死亡が確認されたのは、今年1例目です。平成25年に届け出対象疾患となって以来、本県での患者確認は21例目、患者の死亡確認は5例目となります。(別に、感染症死亡疑い者の遺体からのウイルス検出が1例あり。)

SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染するといわれ、感染予防策としてはマダニに咬まれないようにすることが重要です。

12月頃までは、マダニの活動時期です。森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボンを着用するなどマダニに咬まれないよう十分な対策を講じて下さい。袖やズボンの裾に隙間ができないよう、できるだけ肌の露出を少なくするよう注意して下さい。

<患者の概要>

(1) 患者

男性(79歳)、葦北郡在住

(2) 職業

農業

(3) 症状

発熱、血小板減少等

(4) その他

左足に刺し口あり

(5) 経過

12月1日 農作業実施、倦怠感出現

12月3日 発熱出現

12月4日 発熱、倦怠感の症状が強くなり、水俣保健所管内のA医療機関に救急搬送され、入院

検体を県保健環境科学研究所へ搬入

12月6日 SFTS陽性確認

12月10日 入院先のA医療機関にて死亡

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、マダニに咬まれることで感染し、6～14日の潜伏期間を経て発症し、発熱、消化器症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴います。致死率は6～30%とされており、治療は対症療法となります。
マダニは、衣類や寝具に発生するヒョウダニなどの家庭内に生息するダニと異なり、主に森林や草地に生息、全国的に分布しています。

ダニ媒介性疾患の予防対策

- 今回確認されたSFTSはダニ媒介性疾患の1つです。
- ダニ媒介性疾患の感染予防対策としては、ダニに咬まれないようにすることが重要であり、以下の点に注意して下さい。
 - 森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。DEETやイカリジン（虫よけ剤の成分）を含む虫よけスプレーも有効です。
 - 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。
 - 吸血中のマダニに気がついた場合、マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診すること。
 - 野生動物や飼育している動物に注意すること。

熊本県でのダニ媒介性疾患の年間発生件数（今回の事例を含む） R2.12.10 現在

年	H18～H26	H28	H29	H30	R1	R2	合計
日本紅斑熱	146件	19件	14件	7件	6件	17件	209件
つつが虫病	85件	20件	10件	10件	11件	10件	146件
SFTS	6件	1件	1件	5件	2件	6件	21件

SFTSは、平成25年3月4日から届出対象疾病となった。

記録が残っている平成18年以降の死亡例は、日本紅斑熱4件、つつが虫病0件、SFTS5件です（別に、感染症死亡疑い者の遺体からのウイルス検出が1例あり）。

日本紅斑熱

細菌であるリケッチアに感染することによって引き起こされる病気で、潜伏期間は2～8日、発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、倦怠感、頭痛を伴います。抗菌薬を投与しません。

つつが虫病

ダニの仲間であるツツガムシに咬まれることで感染し、5～14日の潜伏期間を経て、典型的な症例では、39以上の高熱を伴って発症し、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられる。また、患者の多くが倦怠感、頭痛を伴います。治療法は、抗菌薬の投与です。

（お問い合わせ先）

健康危機管理課 感染症対策班 担当：福田、古庄、鮎田
電話：096-333-2240（直通）（内線7072,7082,7085）

「ダニ」にご注意ください



山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう



春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病などに感染することがあります。

ダニに咬まれないためのポイント！

●肌の露出を少なくする

⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

●長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する

⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

●足を完全に覆う靴を履く

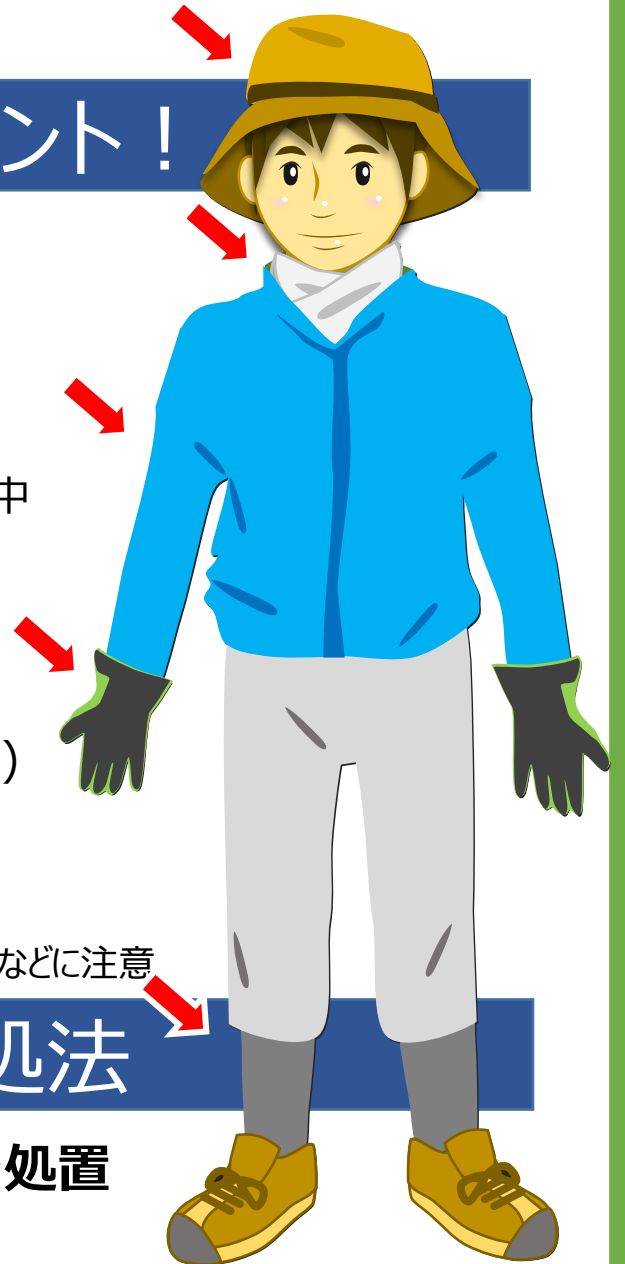
⇒サンダル等は避ける

●明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）

* 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

* 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意



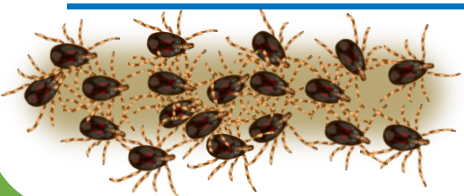
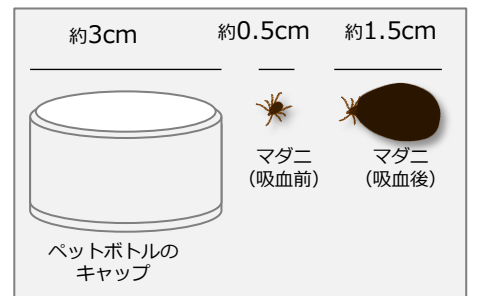
ダニに咬まれたときの対処法

●無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

●マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動



ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください

